

# 関西グローバルヘルスの集い はじまりの物語から KGH流ハイブリッド型までの軌跡をたどる



大阪大学大学院医学系研究科 国際未来医療学講座 特任講師  
大阪大学医学部附属病院 国際医療センター 副センター長  
日本WHO協会 理事／関西グローバルヘルスの集い（KGH）運営委員代表

## 小笠原 理恵（おがさわら りえ）

米国で看護学を学んだ後、中国上海市の外資系クリニックでマネージャーを務める。  
大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了、大阪大学ユネスコチャア運営室助教を  
経て、2022年より現職。

## 関西グローバルヘルスの集い（KGH）はじまりの物語

今から7年前の2018年12月、当協会理事長である中村安秀先生の呼びかけに応じて、KGHの立ち上げメンバー約10名が大阪の本町にある日本WHO協会事務局に集いました。グローバルヘルスに関する諸テーマを取り上げ、立場や職業、年齢などを越えて自由闊達にディスカッションし、お互いを切磋琢磨しあえるような場を日本WHO協会で提供したいという思いを共有し、定期的に無料セミナーを開催することが決まりました。その後の打ち上げの席で（食べ放題の中華料理屋だったと記憶しています）セミナーの名称を決めることになり、一人一人が割りばしの空袋の裏に良いと思う名称を書き、多数決によって現在の「関西グローバルヘルスの集い（略称：KGH）」という名称が生まれました。そして2019年1月、KGHは対面型のワークショップ形式でスタートしました（写真）。場所は大阪本町にあるサラヤメディカルトレーニングセンター、1年目は2か月に一回、参加者15～25人程度が集い、自由闊達に、気兼ねなく率直に、お互いの意見を言い合える場づくりを心掛けました。

## 対面からオンラインへ

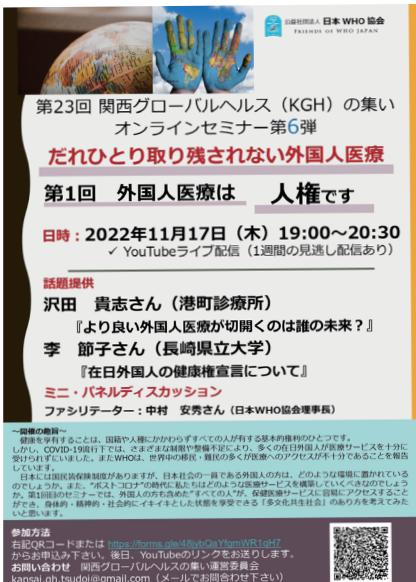
事態が一変したのは、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の世界的流行です。第8回は2020年3月に開催予定で準備は整っていたのですが、「密」を避けるためにはひざを突き合わせて語らいながらの場の提供を断念せざるを得ず、残念ながら幻の回となってしまいました。

そうしたなか運営委員のなかまで話し合ったのがオンラインセミナーの開催です。今では誰もが気軽に使えるZoom

ですが、当時はまだ誰も使い慣れておらず、手探りでのスタートでした。さらに嬉しい悲鳴と言えばそうなのですが、申し込みを始めてみると、予想をはるかに超える多数の参加申し込みがあり、Zoomではキャパオーバーになってしまいました。当時はまだこうしたオンラインセミナーを無料で開催しているところが、とても少なかったからだと思います。色々調べた結果、ZoomをYouTubeに接続することで制限なく視聴者を募ることができることが分かり、試行錯誤の末この方法を会得しました。



写真：KGHの対面セミナーの様子



KGHのチラシの一例

オンラインセミナーの第1弾が開始できたのは2020年5月です。大きなテーマを一つ決め、それを3回シリーズに分けて深く切り込んでいく構成です。おかげさまでオンラインセミナーは第1回から大盛況。ただ回を重ねるにつれて、オンラインではKGHがずっと大切にしてきた双方向での自由闊達な議論はできていない、という思いがこみ上げてきました。そこで考えたのが、オンライン上でのワークショップセミナーの開催です。これは特別編としてGlobal Caféと名付けました。Global Caféの参加者は20～30名程度で、オンライン上ではあっても顔の見える関係と、立場や年齢などを越えた自由闊達な議論の場づくりに努めてきました。

## KGH流 ハイブリッド型への進化

2021年秋ごろにはCOVID-19も落ち着き、2022年には多くの学校が全面的に対面授業を再開しました。KGHでも、オンラインから対面セミナーに舵をきるべきか話しあいがありました。オンラインセミナーでは双方向性の自由闊達な議論は制限されますが、関西圏に限らず日本中、世界中の視聴者と繋がることができます。さらにKGHのオンラインセミナーは、スタートから4年以上経った今

日本WHO協会 関西グローバルヘルスの集い(KGH) 開催セミナー一覧 (2025.8.1付)			
対 面	第1回	2019	グローバル格差のなかの子どもの死亡
	第2回		国際保健での官と民の関係・連携 ～予防接種を例に挙げて～
	第3回		HIVに関する偏見・スティigmaはどうすればなくせるか？
	第4回		筋短縮症～医療の光と影、日本の負の遺産(棄疾事件)をUHCにどう活用するか～
	第5回		医療と宗教～サウジアラビアとインドネシアの医療機関の視察報告より～
	第6回		結核対策から考える国際協力のオーナーシップ、人材育成そして地域の持続可能性
	第7回		プライマリヘルスケアへの原点回帰～アルママタ宣言とアスタナ宣言を日本語で語ろう！～ (未開催)未来につながるプライマリヘルスケア：アルママタ宣言を国内外の現場に照射する！
	(第8回)		第1弾 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と持続可能な開発目標 (SDGs) 第1回：すべての人に健康と福祉を！ 第2回：だれひとり取り残されない！ 第3回：地球規模での持続可能な共生を目指して！
2020	第9回		第2弾 ポスト・コロナ時代の保健医療 第1回：生活と仕事に最も近い場での医療：プライマリヘルスケア (PHC) 第2回：医療にアクセスしたい：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) 第3回：健康ってなに？：ヘルスとウェルビーイングの原点を探る
	第10回		Global Café 2020 冬のワークショップ：わたしたちのグローバルヘルスを語ろう！
	第11回		第3弾 Covid-19からの学びは国境を越えて 第1回：保健ボランティア：なぜ、日本には活躍の場がないのか？ 第2回：オンライン国際協力：できること、できないことは、なに？ 第3回：ソーシャル・ディスタンス：とり残されたのは、だれ？
	第12回		Global Café 2021 夏のワークショップ：わたしたちのグローバルヘルスを語ろう！
	第13回		第4弾 Covid-19 そのとき、現場は動いた！ 第1回：病院編 第2回：行政・保健所編 第3回：教育・学校編
	第14回		第5弾 わたしたちの地球、わたしたちの健康 第1回：プラネタリーヘルスという新たな視座 第2回：環境が健康に及ぼした大きなインパクト 第3回：ヒトも動物も昆虫も！健康への取り組み
	特別編		第6弾 だれひとり取り残されない外国人医療 第1回：外国人医療は人権です 第2回：当事者主体の取り組み 第3回：医療通訳のしくみづくり
	第16回		Global Café 2023 春のワークショップ：わたしたちのグローバルヘルスを語ろう！
オンライン 特別編	第17回		第7弾 Health for Allへの道：平和と紛争・戦争 第1回：紛争・戦争を経験すること 第2回：難民になるということ (対面開催) Global Café 2023 秋のワークショップ：「戦争と平和」を考える
	第18回		第8弾 Health for Allへの道：健康の社会的決定要因 第1回：健康の社会的決定要因 第2回：格差 原因を解明し、縮小する
	第20回		第9弾 わたしの健康、わたしの権利 第1回：My health, my right 人権を考える 第2回：紛争・戦争と健康権 第3回：気候変動と健康
	第21回		(対面開催) Global Café 2025 春のワークショップ：被災者の健康と権利は守られていたのか？
	第22回		*ハイブリッド=オンラインセミナー+対面開催のワークショップ (Global Café)
	第23回		
	第24回		
	第25回		
ハイ ブリ ッ ド *	第26回		
	第27回		
	第28回		
	特別編		
	第30回		
	第31回		
	特別編		
	第33回		
	第34回		
2024	第35回		
	第36回		
	第37回		
	特別編		
2025			

も200～300名のお申し込みがあります。これはスゴイことだと思います。そうしたことからオンラインセミナーは今後も継続的に行っていくことを決めるとともに、Global Caféについては初心に戻って対面で、ひざを突き合わせて自由闊達な議論ができる場の提供をすることで「KGH流ハイブリッド」が誕生しました！

## 仲間大募集！

ふりかえると、あっという間に立ち上げから6年が経ちました。話題提供を頂いた講師の先生方は60名を越えます。KGHの活動がきっかけで、普段は新聞やネットニュースの中で見ることしかで

きない専門家に直接繋がる機会もたくさんありました。初期メンバーとして運営に携わっていた仲間の中には、医学生から医師になっていた人たちや、社会人として活躍している人たちなど、それぞれの道に向かって歩き始めた人たちがいます。運営スタッフは皆、有志によるボランティアです。きつい縛りはありませんが、やれる時に、やれる事を、しっかり責任を持って（これ大事！）仕事に従事してくれる仲間を募集しています。グローバルヘルスに関心のある皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか？普段はつながりのない人たちと繋がって、真剣、かつ楽しく切磋琢磨しあいましょう！詳しくは協会のHPをご参照下さい。